

令和 5 年度 学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立八丈高等学校 定時制課程

1. 組 織

- (1) 東京都立八丈高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成
副校長 主幹教諭（教務主任 生活指導主任） 2 名 主任教諭（進路指導主任） 計 4 名
- (3) 内部委員の構成
校長 副校長 経営企画室長 主幹教諭（教務主任） 主幹教諭（生活指導主任）
主任教諭（進路指導主任） 計 6 名
- (4) 協議議員の構成
地域自治体首長 地域教育委員会教育長 近隣中学校長 地域官公庁から 5 名
PTA 会長 地域有識者 計 10 名

2. 令和 5 年度 学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第 1 回～第 3 回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 5 年 5 月 9 日（火）
協議委員委嘱 委員紹介 評価委員の選出
 - 第 2 回 令和 5 年 10 月 20 日（金）
教育活動中間報告及び学校評価アンケート案提示
全日制課程「進路状況と部活動」報告 定時制課程「八高祭」報告
 - 第 3 回 令和 6 年 2 月 8 日（水）
教育活動の年間総括 非認知能力の育成とその考察まとめ
学校評価アンケート集計結果 来年度への課題
- (2) 評価委員会の開催日時会場 出席者 内容 その他
 - 第 1 回 令和 5 年 5 月 9 日（火）
学校評価の基本方針の確認 昨年度の学校評価の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討・行事の調整のため、年間行事計画を早めに情報提供してほしい。
（中学校長からの要望）
八丈島の優秀な子供たちが八高の魅力を感じるような学校運営を目指す 体力の向上
 - 第 2 回 令和 5 年 10 月 20 日（金）
今年度の学校評価の観点・項目・内容の検討 アンケート実施時期の検討
ソーシャルスキルの向上と非認知能力の育成
 - 第 3 回 令和 6 年 2 月 8 日（水）
学校評価アンケート集計結果 来年度への課題
全日制課程・・・学校・生徒・保護者からプラスの評価がある一方、厳しい意見もある。
定時制課程・・・学習課題 授業の工夫 人間関係の構築 学校への信頼感の醸成 規範意識を高める必要性

3. 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校生活の充実度」「学習及び部活動等への意欲」「進路希望の実現」「地域との連携」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回収数・回収率

1 2 月	在籍生徒	対象：14 名	回収： 14 名	回収率 100 %
1 2 月	保護者	対象：14 名	回収： 10 名	回収率 70 %
1 2 月	教職員	対象：14 名	回収： 14 名	回収率 100 %
1 2 月	地域教育関係者	対象：37 名	回収： 29 名	回収率 78 %

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、学校行事及び部活動、防災教育、健康と安全施設・設備、教職員のライフワークバランスなどの評価項目を本校の実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要

- ①昨年度の数値と比較いくつかの項目で減少が見られた。特に、2「授業に満足しているか」、7「進級・卒業既定の熟知」、8「生徒指導方針の理解」で見られた。学校のきまり等について改めて周知徹底することが必要である。コロナウイルス感染症の第5類移行による制限の緩和と共に部活動が再開したことで、生徒たちの笑顔が戻ってきている。天体観測会や定時制通信制陸上競技大会に参加するなど充実した課外活動が本校の魅力でもあるため、今後も生徒の心身の健康維持と魅力ある学校運営と情報発信に精力的に取り組む。
- ② プラスの評価が増加した項目では、5「定時制で良かったか」が25%増え、64%となった。7「特色ある教育活動」では10%の増加が見られる。「進路希望の実現」では13%と高い増加が見られる。担任、進路指導部が「総合的な探究の時間」や進路講話をもとに3学年の早い時期から生徒に指導を行ったことによる。減少した項目が12項目ある。この中で12「地域連携」が26%減じており顕著な数値であるが、昨年度までの連携と大きな変化はない。「人間と社会(3学年)」、防災教育、課題探究発表会において島内の関係機関による講習や評価、また特活の日で外部講師を島民に依頼した調理実習等の連携も行っている。併せてこれらの様子をX(旧twitter)で発信しているので、次年度も継続したい。

4. 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた意見(全日制課程 定時制課程)

- ① 八丈学の交流と住民との関係は良好である。生徒数の減少、八丈高校の継続、町の人材不足などの問題を背景に「将来は町を支える」ような人材育成を期待する。(八丈町長)
- ② 非認知能力の育成に関心がある。離島の生徒に対して必要な教育である。今後も続けてほしい。評議会や職員研修、生徒に関わる情報のDX化を通じた、町内の小中高の連携を構築する。
- ③ 中高生SNSトラブルが増加中。SNSルールやマナーについての指導について詳しく知りたい。
→ 毎年生徒会を中心に生徒たちで議論させ「八定SNSルール」を更新している。
- ④ 家庭学習の定着について、小学校から継続して課題である。一人一台タブレットを用いた家庭学習の定着について情報共有をしてほしい。
- ⑤ スクールカウンセラーの面接についてどのような対応をしているか。(定時制は随時オープン体制)
- ⑥ 不登校生徒への対応。傾向として体調面、メンタル面、福祉的な面など様々である。町内の関係諸機関やSC、YSWと連携した対応を行った。
- ⑦ 令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、教育活動が従来の形に戻り、生徒の活動や授業も制限がなくなり、生き生きとした学校生活が戻ってきた。

5. 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

① 単身で生活している生徒の支援について

保護者に対して受検前相談時に、単身生活の条件として、「緊急時には必ず来島し、生徒への適切な対応・看護が必須であること」を確認し、島内の各関係機関と連携をとりながら生徒の安全な生活について支援する。

② 生徒の社会性の向上について

社会的関係を築くためには、周囲の人への理解とやさしい言葉使い、自制心、我慢強い心、目標を設定し努力を継続する力とやり遂げる力、他者と協力する力が欠かせない。

上記の能力を伸ばすため、本校在学中の教科授業だけでなく、ロング・ホームルーム、行事（特活の日、遠足、八高祭等）の企画、実際に参加すること、反省と改善を地道に行うことを4年間継続することが必要であることを、教職員があらゆる機会や場面で繰り返し啓発し、支援していく。

4月初旬のオリエンテーション、ロング・ホームルーム、各教科授業で繰り返し指導し、注意喚起するとともに、実践できた生徒を公にほめる（評価する）ことで広げていく。

③ 学力向上と進路指導の充実

卒業後の進路実現のため一人一人の生徒に必要な支援を見きわめ計画的に指導を行う。生徒自身の希望する進路実現を支援する。

令和5年度の4年生より、「総合的な探究の時間」「ベーシック」の授業内容を個々の生徒の卒業後の進路に即して必要とされる知識、能力に視点を当て、生徒自ら課題を選択し、演習を行えるよう改善した結果、各々が主体的に課題に取り組むことができるようになり、進路実現につながった。

④ 非認知能力育成への考察

新しい時代に必要な能力である非認知能力を日々の教育活動でどのように育んでゆくか、考察と検証が資料提示された。引き続き、生徒の指導や支援に活かしていく。

⑤ 計画的なキャリア教育の再構築

生徒の適性や能力を活かした進路の実現に向け、入学当初から4年後の卒業を見越したキャリア教育に全教員で取り組む。

6. 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
10	0	0	0	0	0	0

7. 職員研修・連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員研修・連絡会 2回（専門医研修） 企画調整会議 0回

8. その他（総括）

- ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、教育活動の制限が緩和され、3年ぶりの正常な教育活動が行えるようになり、活発な生徒会活動と生徒による主体的な企画運営の様子に頼もしさを感じられた。
- ・新入学生が減少した。進路選択の多様化により八丈島内の中学生の進路が変化してきた。最初から定時制課程を選んでもらえるような丁寧な広報活動や定時制の教育活動の魅力発信が必須である。
- ・言葉遣いやコミュニケーション等の人間関係で悩む生徒が多くなった。「規範意識」の醸成とコミュニケーションスキルを身につける指導について考える必要がある。
- ・4年後の卒業を見据えて、学力の伸長と進路実現のために教員が一丸となって取り組んだ。また特別支援教育としてSC、子ども家庭支援センターや警察等の公的専門機関と情報共有を強めた。
- ・緊急時のオンライン授業など、多様な形態でも質の高い教育が提供できるようICTに関する教員のスキル向上と環境整備を徹底した。